

なみえ のいま

第12号
令和6年3月

つながりの明かりを灯す



住宅団地に住む有志による任意団体「つしま会」がイルミネーションで地域を明るくする活動に取り組みました。ボランティアで参加した皆さんが、設置作業などを通じ交流の輪を広げました。



津島 大盛況のもと 肉まつりで交流

地域の楽しい思い出のひとつとして語られることの多かった『肉まつり』が、避難指示が解除された特定復興再生拠点内のつしま活性化センターを会場に、原発事故後初めて開催されました。

避難先など町内外から400人を超える来場者があり、参加者は津島の魅力や思い出を語りながら焼き肉を味わったほか、ステージで披露された地域の郷土芸能なども楽しみました。



▲それぞれの席で焼き肉を味わう皆さん



大堀 谷津田 草刈り活動

谷津田行政区では年に数回、草刈り活動がおこなわれています。今年度最後の活動は例年より遅い12月10日に実施されました。集合が早朝7時にも関わらず、寒さのなか遠方の方を含め大勢の方が活動に参加されました。

宮代区長は「環境整備も大事だが、一番は住民みんなが顔を合わせ、話ができる場になること」とおっしゃっていました。区長の思いどおり、大変な作業の合間には、みなさんが楽しそうにお話をされている様子がとても印象的でした。



苅野 室原地区で防災拠点を整備

室原地区に防災拠点の整備が進められてきました。いよいよ4月より開所となります。常磐自動車道の浪江インターチェンジに接し、災害時には施設内に500人の避難が可能です、250台分の駐車場も備えられています。

平時には集まりごとなどに利用できる1室50畳程度の集会室などが10室あることから、住民の交流の場としての活用も期待されています。



▲一時立ち入り対応で平日は町職員が常駐します

町内各地域の動き ～令和5年度下期～

令和5年3月31日の特定復興再生拠点の避難指示解除からまもなく1年。コロナ禍も明け、町内ではさまざまな出来事がありました。前号に続き、当事業にて支援をおこなった活動も含めてその一部を紹介いたします。

まちづくりなみえのHP内ブログでも地域の情報を発信していますのでご覧ください。



過去のブログ記事はこちらの
2次元コードからご覧いただけます



浪江 樋渡・牛渡 住民協働による 防災の集い＆芋煮会

12月10日に樋渡・牛渡行政区で『防災の集い＆芋煮会』がおこなわれました。区長と住民15名程度で地域を回り、住民へ声かけをしながら、居住状況や災害時の危険箇所、避難場所などを確認しました。その後集会所で、若い世代が中心となり、災害時の連絡方法や班編成、役割分担などについての話し合いがおこなわれました。世代を超えて活発な意見交換がなされる様子を、地域防災への意識の高さがうかがえる1日となりました。



幾世橋 神社清掃を実施

毎年実施されている幾世橋3行政区による年末の神社清掃がおこなわれました。今回は倒れた木の移動作業も生じたためグループを2班に分けて作業を開始。初発神社、山津見神社、八幡神社の3カ所について清掃を実施。手際よく進んでいきあっという間にきれいになりました。

清掃後に初発神社の田村禰宜より「神社のお祭りに合わせて竣工祭をやりたいと思っています。震災前のようにまたいろいろ活動をしていきたい」とお話がありました。コロナ禍も終わり、再びにぎわいが戻りそうです。



請戸 “請戸もの”に行列！ 請戸魚市

12月9日に相馬双葉漁協請戸地区青年部による『請戸魚市』が開かれ、開場前から行列ができるなど多くの来場者でにぎわいを見せました。

請戸近海で水揚げされたヒラメやカレイなどの活魚、シラスやメヒカリ、カマスなどの加工品も並び、品定めしながら新鮮な魚介類を買い求める来場者の姿がありました。会場ではホッキ飯やカニ汁の振る舞いもあり、魚市を訪れた人が地元海産物の美味しさを堪能しました。



津島地区でのイルミネーション事業

～活動を振り返って～

特定復興再生拠点の避難指示が解除され、入居が可能となった津島住宅団地に住む住民有志が冬の津島を明るく彩りたいとイルミネーション事業に取り組みました（表紙写真）。浪江町の復興コミュニティ事業補助金や復旧作業に従事する企業などの協賛を得て、役員とボランティアの皆さんで設置作業をおこなったイルミネーションは1月末までの2か月間、地域を明るく照らしました。活動に取り組んだ任意団体つしま会の5名の皆さんが感想を語り合いました。



▲イルミネーションの設置作業には約30名が参加

——取り組んでみて

「原発事故による避難で、地元の津島から明かりが消え暗い地域になってしまったけれど、イルミネーションでパーっと明るくなり感動したよね」
「移住者ですが、地域のみなさんやボランティアの方たちと協力して取り組めて良い体験でした」



▲活動を振り返る皆さん

——補助金の活用や企業の協賛について

「まちづくりなみえの支援員が手伝ってくれて、あちこち相談に行きましたね」
「賛同してくださる皆さんがいることに驚いたし、本当にありがたいと感じました」

——イルミネーション以外にこれからやってみたい活動は

「参加者を募って、解除されている地区の神社仏閣とか思い出の場所をみんなで歩いて巡るような企画はどう？地元の人が説明しながら歩いて回ることで、昔や今の津島のことを知るきっかけになると思う」

「いつか花火大会ができるようになるといいなあ。避難されている方にも足を運んでもらえれば、津島の現状発信にもつながりそう」

「原発事故前は盆踊りのときに花火をあげる地域も多かったから、花火大会は楽しんでもらえるかもしれないね」

つしま会の皆さんが終始、楽しそうに活動へ向けた想いを話す姿が印象的な座談会となりました。当事業では引き続き、地域の人をつなぐコミュニティ活動を後押ししていきます。

Pick
up

請戸の^{くさの}苕野神社が再建、住民の心の拠り所に

津波により社殿が流失した請戸地区の苕野神社では、再建までの様々な動きがあった1年となりました。10月には上棟式、秋から年明けには散り散りになった氏子ら関係者が何度か集い、2月の安波祭と竣工式の開催に向け打ち合わせを進めました。新たな神社の社殿は、周辺ではあまり見られない流れ造りとなっています。災害危険区域に指定され戻って住むことができない請戸地区ですが、氏子総代長の五十嵐光雄さんは「苕野神社が戻ってきたことで請戸に立ち寄る用件ができた。ありがたいと言いたい」などと話し、神社が住民の心をつないでくれることに期待を寄せています。



なみえのいま 第12号（令和6年3月1日発行）

発行・編集：一般社団法人まちづくりなみえ 町内コミュニティ再生支援事業

〒979-1513 浪江町大字幾世橋字大添52-1

Tel：0240-23-7530 Fax：0240-23-7531 HP：<http://www.mdnamie.jp/>

当事業の活動広報誌「なみえのいま」は年度内2回（10月と3月）発行しています。町内では道の駅なみえやふれあい交流センター等にも配置しています。

▼ HPはこちら



バックナンバーも
HP内に掲載